



ロータリー 2000:
活動は—堅実、
信望、持続

ROTARY 2000:
ACT WITH
CONSISTENCY, CREDIBILITY,
CONTINUITY

1999—2000年度

RI会長

カルロ・ラビッツア

第2640地区ガバナー

成川 守彦

事務所 海南市日方1294
〒642-0002 海南商工会議所内
TEL (073) 483-0801
FAX (073) 483-2266
例会日 毎週月曜日 12時30分
♣第1例会のみ 18時30分
於 商工会議所4F
会長 深谷政男 **幹事** 土井元司
SAA 谷脇良樹
会報委員会 ◎花田宗弘○田村能孝
冷水正雄 田中昌宏
吉野 稔 小椋孝一

四つのテスト

- ①真実か どうか
- ②みんなに公平か
- ③好意と友情を深めるか
- ④みんなのためになるか どうか

海南東ロータリークラブ Kainan East Rotary

DISTRICT 2640 CLUB WEEKLY BULLETIN

本日のプログラム

平成11年8月2日 第1148回例会
夜間例会 PM7:00～ 於 海南商工会議所4F
新入会員歓迎会
ローターアクト3役ご招待
8月会員、奥様誕生日お祝い
8月誕生日奥様ご招待

次回のお知らせ

平成11年8月9日 第1149回例会
100%出席お祝い
国際奉仕、ローターアクト、委員長会議報告

前回の報告

平成11年7月26日 第1147回
PM12:30～ 於 海南商工会議所4F

1. 開会 点鐘 深谷 政男 会長
2. ロータリーソング 「手に手つないで」
3. お客様のご紹介 成川守彦ガバナー
上野山英樹代表幹事
4. 出席報告 会員総数 75名 出席者数55名
出席率 77.46% 前回修正出席率 84.50%
5. 会長報告
皆様今日は

まだお食事の方も御座いますが、成川ガバナー様のお話しをお聞きする時間を沢山取りたく思いますので、いつもより早い目に会長報告を行ないます。

本日はガバナー公式訪問という事で、当地区ガバナー成川様、代表幹事上野山様ようこそお越し頂き有難う御座います。

午前中はガバナー、代表幹事との懇親会で色々ご意見を頂き有難う御座いました。

お二人様には毎日の公式訪問、委員会等でお忙しいと思いますが梅雨も明け、毎日暑い日が続く毎日お体にはくれぐれもご留意頂き宜しくご指導お願い致します。

本日の例会終了後、協議会を3階特別室で行ないますので、委員長の方、活動報告書に書かれた以外の事に関しても遠慮なく発表お願いいたします。今後の当クラブの新企画を考える上でガバナーより良いご指導をいただければと思いますので宜しくお願い致します。

先日お伝え致しましたフィリピンの国際委員長ご夫妻の当クラブメイキャップは8月の最終例会にとのメールが届いております。以上で報告を終わります。

E-mail : rotary@kankyo.co.jp

URL: <http://www.kankyo.co.jp/rotary/kainan-east>

6. 幹事報告

○メイキャップ

7/23 中村 雅行君 (和歌山中RC)

○例会臨時変更のお知らせ

粉河RC 7月28日(水) → 7月28日(水)

PM12:30~1:30

幸福銀行粉河支店3F

8月25日(水) → 8月21日(土)

PM6:30~京都嵐山

(日帰り家族例会)



上野山代表幹事

成川ガバナー

○休会のお知らせ

有田南RC 8月10日(火)

田辺東RC 8月11日(水)

和歌山東RC 8月12日(木)

高野山RC 8月13日(金)

粉河RC 8月18日(水)

○本日例会後当館3Fにて、ガバナー及び代表幹事を囲んで委員長会議を開きますので、各委員長は出席下さい。

7. ガバナー・アドレス(要旨)別紙

ニッココ・米山・BOX

辻 秀輝君 ガバナーよくいらっしゃいました

先日北海道の山に行って風邪をひきました

倉橋 利幸君 ガバナー1年間よろしく願い致します

深谷 政男君 ガバナー、代表幹事公式訪問ありがとうございます
御指導の程よろしくお願い致します

土井 元司君 同上

山名 正一君 同上

橋本 憲紹君 同上

花畑 重靖君 全米写真家協会誌の世界の国際写真家ランキングの記事に、日本人5人の中に私も入っていました

上芝 良造君 先日塩崎さんの義弟さんに家内達がお世話になりました



成川ガバナー アドレス風景

ガバナー・アドレス (要旨)

国際ロータリー第2640地区
ガバナー2000 成川 守彦

今、ロータリーは、大きな曲がり角に来ております。昨年ロータリーは、1942年以來の、世界的な会員数の減少を見ました。1905年に創設されて以來、会員数の減少は、大恐慌の1932.33年、そして戦争の故に国々がロータリーに門を閉ざした1941.42年のみです。

今、会員が減少するのは、「ロータリーに魅力がなくなった」からではないでしょうか？

「ロータリーの魅力とは」、私は、① 地域のニーズにあった奉仕

② 例会を意義ある、価値あるものにする

事だと思えます。即ち「ロータリーの原点に帰ることが大切」と思えます。

ロータリーライフの中で最も大切にしなければならないことは例会出席であります。そのことを肝に銘じ、生涯学習の場としての例会を、魅力あるものにしなければなりません。

さて、ロータリーの効用は、一人一業種で選ばれた良質の職業人が、毎週一回定例の会合に集い、例会を通じて奉仕の心を育み (enter to learn)、高められた心を持って職場や地域社会・国際社会で奉仕活動の実践をする (go forth to serve) ことにあります。

今日は、ロータリーを魅力的にするための【親睦と例会の意義】について、お話させていただきます。

親睦を目的として出発したロータリーも、現在のロータリーの定款や細則の中から親睦の文字を見つけだすことは難しく、僅かに親睦活動委員会の名称に、その痕跡を止めているに過ぎません。もはや、ロータリー・ライフの中で、親睦は必要なくなったのでしょうか。

ロータリーの二本の柱として、ロータリアンのほとんどは親睦と奉仕をあげますし、新しいロータリー年度が始まると、新会長の挨拶にも親睦と奉仕という言葉が、度々述べられます。

ここで、「親睦」という言葉を、今一度、原点に戻って、考えてみましょう。

1923-24年度RI会長ガイ・ガンディカーは

[A Talking Knowledge of Rotary] (ロータリー通解) で、次のように述べています。

しばしば、ロータリーで親睦を図ることが、ロータリー運動の全てであるように誤解される。また、ゆらぎない親睦こそ、ロータリーが存続する絶対的条件だと考えているクラブもある。しかし、これらの二つの立場からの判断には、明らかに批判の余地がある。親睦はロータリー運動そのものではなく、ロータリーという植物が根をはり、成長するためにどうしても必要な、最上の土壌なのである。

この、ロータリーでいう「親睦」という言葉ですが、私は日本のロータリアンの多くが、誤解していると思います。

日本のロータリアンがよく使う意味の「親睦」を図るのであれば、誰にだって無限の機会があります。気の合った仲間とゴルフや旅行に行くもよし、カラオケやバーでだって親睦を図ることができます。一人一業種だなんて料簡の狭いことをいわなくても、同業者同士でも充分親睦は図れます。ロータリアンになって、定例の会合に出席しなければ親睦が図れないということは、ありません。

親睦と親睦活動を混同しているのです。親睦会・懇親会やゴルフ会に参加することは親睦活動に参加することであって、ロータリーのいう親睦とは違った次元のものです。

ロータリーが考える親睦とはどんな意味を持っているのでしょうか。

「親睦」の元の英語は、**fellowship** です。この **fellowship** を [親睦] と訳したことに問題があるのです。[友愛] とか [友情] と訳す方が理解し易いかもしれません。

fellowship とはロータリー思想が形成され、成長する過程において導き出された概念であって、「奉仕の心を作り出すための例会における諸活動」のことを指すのです。

例会の場で、職業上の発想の交換を通じて、分かち合いの精神による事業の永続性を学び、友情を深め、自己改善を計り、その結果として、奉仕の心が育まれてきます。この例会における一連の活動の前提となるものが、[親睦] であります。 例会で学んだことを、[奉仕活動] として実践する場が、家庭・職場・地域社会・国際社会などの **Community** であります。

親睦活動が、親睦というロータリー本来の運動を高めるために補助的に活動することは大切なことですが、親睦活動委員の任務を、親睦会の幹事や同好会の世話役に留めることは大きな誤りです。 確かに会員が心を打ち解けあう手段の一つとして、親睦会やクラブ活動などのリクリエーションも必要であります。しかし、親睦を深める最適の場所は、毎週

一回の定例の例会であることを忘れてはなりません。例会において、いかに友情を深めるかを考え、実行することが、親睦活動委員会の最大の任務なのです。

一人一業種で選ばれた会員が、毎週開かれる例会に集って、お互いが師となり徒となって、奉仕の心を学び自己研鑽を重ねる。それをロータリー運動の一つの柱と考え、それを達成するために試みる、ロータリアン同士の、友情に裏打ちされた凡ゆる行動のことを総称して「親睦」と呼んでいるのです。

友情溢れる例会を通じて、ロータリアンがお互いに切磋琢磨し自己改善に務めることで、ロータリーの説く親睦が一層深まり、奉仕の心が高まっていくのです。

米山梅吉氏は、「ロータリーの例会は人生の道場」と語っています。

お互いが切磋琢磨して自己研鑽に励む貴重な修練の場であります。

例会運営に当る者は、事業に従事すべき貴重な時間を割いて例会に参加する会員に、それに値するメリットを与える義務があります。即ち、限られた時間の中で、如何に有益な情報を効果的に提供するかを真剣に考えて、実行しなければなりません。

会長の時間、議事、各種の報告、卓話、そのひとつひとつがロータリー運動の質を高め、参加者の心に深い感銘を与える内容であってこそ、始めて、例会出席の意義が満たされるのです。

例会で学んだ奉仕の理念を、自分の職場に持帰ると共に、自分が属する業界に広め、地域社会全体の職業モラルを高めることが職業奉仕だと考えれば、あなたが例会を休むことは、あなたはもちろんのこと、会員全員に、さらに、地域社会のすべてに、大きな損失を与えることになるのです。

ちなみに、ガイ・ガンディカーは、ロータリーの精神を真に理解している者を「ロータリアン」と呼び、そうでない者を「ロータリークラブの会員」と区別して呼んでいます。

ロータリアンは例会を通じて、自己改善されなければなりません。

例会を通じて学ぶべきことは、ロータリーにおける奉仕の心であって、必ずしも、定款や細則の条文を誦んじることではありません。定款を憶えるとも大切ですが、規約の中にロータリーがあるのではなくて、規約が制定されるに至った背景と過程の中に、ロータリ

一の哲学を燻蒸させる思考、すなわち、ロータリーの奉仕の心が潜んでいることを忘れてはなりません。

ガイ・ガンディカーは真のロータリアンを「常に電流の流れている電線」live wire にたとえています。

電流が流れたり止ったりする電線は、何の役にもたちません。常に電流が流れる電線であるがゆえ、価値があるのです。

毎週一回の例会に出られない人が、その職業の代表者としてロータリークラブの会員になったとしたら、その業界に与える損失は計りしれないものとなるでしょう。ロータリークラブはそのような無資格者を、直ちに排除して、同一職業分類の下で新たな適格者を入会させる努力をしなければなりません。

例会を通じて、ロータリアン各自が、高質で豊かな奉仕の心を培うためには、例会出席は欠かすことのできない義務であり、別な言い方をすれば、他のロータリアンに対する友情の証でもあるのです。出席不良の会員や四回も続けて欠席するような会員から友情を期待したり、奉仕の心を語りあうことは不可能であり、そのような会員を放置することはロータリー運動そのものを危うくするという理由から、「自動的に退会」という最も厳しい措置が講じられるのも当然であります。

また、定例の日時と場所で例会を開くことは、世界中のロータリアンに対する約束事であり (Official Directory に掲載されています)、何時、どこの国のロータリアンが来訪するかもしれないのです。特別の事情がない限り変更したり中止してはなりません。

本年、私は、IMや地区大会に例会を変更して、IMや地区大会を例会に充当しているクラブに対して、これは規則違反であるから止めるように話しております。その理由は、今日の私の話を聞いていただければ、ご理解頂けたと思います。

ロータリアンには、定年も卒業もありません。ロータリー運動を機会に始められた「人生の真理の探究」は、より高い次元へ向って、その内容の質を高めながら、終生続けられなければならないのです。